

# 「白血病」

最近、メディアなどでとりあげられる機会が多い「白血病」ですが、もちろん身近とはいえず、なかなか治り難いイメージのある病気です。今回、特に急性白血病についてお伺いしました。

## 急性白血病はどのような病気ですか？

血液の製造工場である「骨髄」では、造血幹細胞から血球（赤血球、白血球、血小板）が造られます。急性白血病では、造血幹細胞から成熟した血球となる過程のなかで成長することをやめてしまった不良品（芽球または白血病細胞といいますが）ができ、骨髄中でどんどん増えていきます。そのため正常な血球を造ることができなくなり、増

殖を続ける異常細胞はやがて骨髄からあふれ出て、肝臓や脾臓などの臓器の腫れをおこします。異常細胞の種類により「骨髄性」「リンパ性」などに分けられます。

## 急性白血病の症状にはどのようなものがありますか？

正常な血球が造れなくなることで、「赤血球の減少」による息切れ・だるさ、「正常な白血球の減少」により免疫力がなくなり発症する肺炎などによる発熱、

「血小板の減少」による鼻血、皮下出血などの症状が出る場合があります。全く症状がなく健康診断などの血液検査で見られる場合もあります。

## 急性白血病にかかりやすいのはどんな人ですか？

特殊な場合を除き、原因は不明です。従って効果的な予防法もわかっていません。特殊なものとして、抗がん剤や放射線などの治療のあとで起こる「二次性白血病」、成人T細胞性白血

病ウイルスによる「成人T細胞性白血病」などが知られていますが、注意が必要です。

## 急性白血病の治療法にはどのようなものがありますか？

無治療でいると多くの場合急激に悪化しますので、一般的には可能なかぎり早期に治療を開始します。白血病細胞を攻撃する以下のような治療法が基本となります。

1. 薬物療法ー薬（抗がん剤など）を投与して白血病細胞を殺し、その増殖を抑制します。
2. 造血幹細胞移植ー大量の抗がん剤、放射線療法などの強力な治療で、白血病細胞を破壊したあと、正常な造血幹細胞を移植して骨髄機能を回復させる治療。

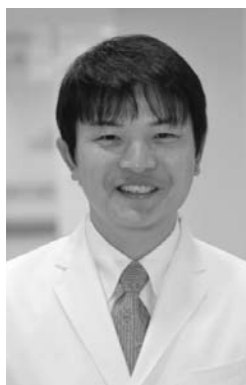
これらの他、副作用や合併症に対する治療が特に重要となります。白血病細胞は1つでも残っていると再び増殖して再発します。このため白血病の治療では、

完全に白血病細胞を「ゼロ」にすることを目標に治療を行いますので、治療期間は数ヶ月から1、2年に及びます。最近では白血病研究のめざましい進歩により、一部の白血病に対して、これまでの薬物療法とは異なる作用で効果を発揮する「分子標的薬」などが使用可能となっています。

## 造血幹細胞移植を受ければ、必ず治りますか？

まずは薬物療法を行ったあと、患者さんの状態や造血幹細胞が十分得られるかなどを慎重に考え、必要に応じて考慮されます。薬物療法のみで治る可能性が高い場合、またご年齢などにより移植による重い合併症がおこる可能性が高いと予想される場合などには移植をしない場合が多いのが現状です。大変有効な治療手段である一方、身体への負担も非常に大きく、移植を受けたあと再発する場合もあり必ず治るとはいえないのです。

### 今月の先生



岐阜市民病院血液内科

#### 笠原千嗣 先生

専門分野は、造血器腫瘍化学療法、造血幹細胞移植  
 血液内科部長・輸血部副部長・外来化学療法部副部長  
 主な資格、認定  
 日本血液学会専門医・指導医  
 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医  
 日本輸血細胞治療学会認定医  
 日本内科学会認定医・指導医  
 日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医  
 卒業年  
 平成8年岐阜大学医学部卒